

山奥で命を繋ぐヤマメ

県西部に位置する丹沢の山奥には、溪流釣りで人気の高いヤマメが生息しており、県内の内水面の漁業協同組合や NPO が、増殖活動として稚魚や発眼卵の放流を行っています。内水面試験場では、丹沢での溪流魚調査を行っており、近年は在来ヤマメの生息調査や、溪畔林環境の整備が溪流魚や周辺環境に与える効果の調査に取り組んでいます。一方で、ヤマメがいつ、どこで繁殖しているかは明らかにされていません。今回は 3 月に行った調査にて、ヤマメの繁殖が確認されたのでご紹介します。

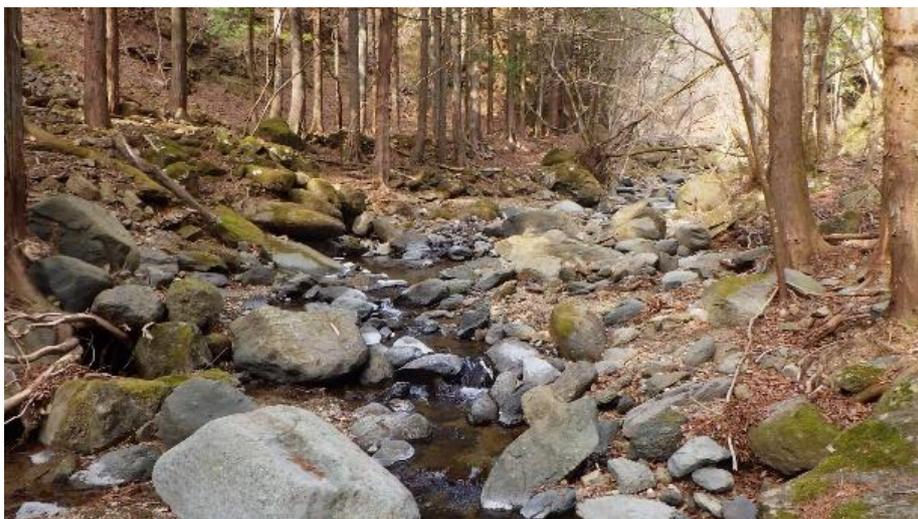


図 1：調査地点の様子

今回の調査地点は、相模川水系唐沢川の支流で、調査地点の入り口は、なだらかな流れでした(図1)。川を遡行しながら稚魚を入念に探しますが、簡単には姿を現してくれません。調査を続け上流に進むと流れは徐々に強まり、途中には淵が現れました(図2)。この淵にはヤマメの成魚が目視で確認でき、淵尻には稚魚が期待できるポイントもありました。採捕を行うと、やはりヤマメの成魚が姿を現しましたが、稚魚の姿はありませんでした(図3)。



図 2：淵の様子



図 3：採捕された成魚

さらに上流へ進むと、メインの流れから枝分かれした細い流れを発見しました（図4）。水深は10～20 cm程度で、川底には落ち葉が堆積した環境で、ここでは目視でもヤマメの稚魚が数十尾確認できました。早速、濁りが出ないように慎重に採捕を行ったところ、無事に28尾の稚魚を採捕することが出来ました（図5）。今回採捕された個体は、体長25 mm程度の小さな個体ですが、既にパーマークが確認できます（図6）。これから夏にかけて昆虫類を食べ、立派に成長してくれることを期待します。



図4：稚魚を確認した流れ



図5：採捕された稚魚①



図6：採捕された稚魚②